

年度 2009 学期 後期	曜日・校時	木曜日・3校時	必修選択 選択	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	言語と芸術・日本古典文学(神話・伝説・物語)/Language and Art・Japanese Classical Literature (Mythologies・Legend・Tales)			
対象年次 1・2年次	講義形態	講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部		科目分類 人文社会科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 勝俣 隆 /Eメールアドレス: katumata@nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部653 /オフィスアワー:研究室扉に掲示				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:日本の古典文学に理解と親しみを持つことを通じて、大学生として必要な最低限の知識を得る。また、読解作業を通じて、自らの知性を磨き、思考力を養う。風雪に耐えて現在に伝えられた伝統的な文化遺産である古典の価値を知り、将来に伝えていくことの必要性を認識する。 授業方法:プリントを配布し、教授者が解説する。人数によっては、受講者にも資料を読んでもらう。説明内容を基に、内容について考え、疑問点を見つけ出す。毎授業の終わりに行う小レポートに、講義中抱いた疑問点を記述し、提出する。そのレポート提出をもって出席をつける。そのレポートを評価し、質問事項を要約し、質問に対する回答を記述し、次回に印刷し、配布する。配布し、さらなる質問を受け付け、回答した後、次の授業に進む。内容は1回ごとにテーマを変える。 授業到達目標:日本の古典文学の面白さが分かること。講義中に講義内容を踏まえ、常に疑問を持ちながら聴く態度を身に付け、その疑問を記述する形で表現できること。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 日本の神話・伝説・物語・昔話等の中から、天体(星や星座、月、太陽)の登場する代表的で親しみの持てるものを選び、その作品について概説した後で、実際の本文を読むことによって、その内容を紹介する。その上で、そこに描かれた内容をどう理解すべきか、解釈を行う。さらに、その伝説が、時代によって変化している場合は、その変化の後を裏付け、何が原因でどう変化したのかを解明する。また、話の内容が、外国の作品と類似するものは、その影響関係や構造的な関係についても言及する。それらを通して、日本の古典文学の面白さとその存在意義を知る。 第1回 日本神話の星その1・・・天の御柱と国生み神話 第2回 日本神話の星その2・・・禊祓神話から生まれた星・太陽・月の神々 第3回 日本神話の星その3・・・天孫降臨神話における星座の神々 第4回 日本神話の星その4・・・天の石屋戸神話における高天原の神々 第5回 丹後の国風土記・・・浦島伝説の星 第6回 七夕伝説の星と月 第7回 万葉集の星や月、太陽 第8回 竹取物語・うつほ物語・伊勢物語等の月や星 第9回 枕草子の星 第10回 今昔物語・梁塵秘抄等の星 第11回 建礼門院右京大夫集等の歌集に描かれた星 第12回 御伽草子の星その1・・・あめわかみこ 第13回 御伽草子の星その2・・・梵天国・おもかげ物語 第14回 その他の歌・俳諧等に描かれた星 第15回 全授業のまとめ(講義内容に関する試験の実施で、能力・学力・意欲を判定する>)				
キーワード	日本古典文学・神話・伝説・物語			
教科書・教材・参考書	自作プリント使用、適宜視聴覚教材も利用する。参考書・・・拙著『星座で読み解く日本神話』(大修館書店)・拙稿「古事記年報」「天文月報」「天界」「星の手帳」「歴史読本」「アジア遊学」等の関連論文。			
成績評価の方法・基準等	毎回の小テストレポートの評価の累積、並びに、15回目のまとめとしての試験の成績、並びに出席状況を総合的に判断して行う。6割以上の出席は必須条件。			
受講要件(履修条件)	特になし			
本科目の位置づけ/学習・教育目標	大学生としての最低限の国語力・文学的知識を持つこと。大学生に相応しい思考力・理解力・読解力・筆記力を持ち、自分自身で主体的に判断する力を習得することを目標とする。			
備考(準備学習等)	常に疑問を持って、物事をよく考える態度を身につけること。			